

# 国際協力の現場を語る

JICA（ジャイカ：国際協力機構）は、開発途上国の発展を支援するため、実務の経験と知識を持ったシニア（40歳～69歳）を途上国に「シニア海外ボランティア」として派遣しています。この人達はシニアならではの、海外旅行などでの体験とは違ったいろいろな体験をしてくれています。そんな話題も含めて体験を語って頂きます。

日 時：毎月第3水曜日 15時30分～17時

会 場：JICA 横浜 会議室またはセミナールームなど

会 費：無料（どなたでも自由に参加出来ます）

主 催：NPO「シニアボランティア経験を活かす会」

後 援：JICA 横浜

（やむを得ず日時・会場が変更される場合があります。事前にシニアボランティア経験を活かす会ホームページまたは下記問い合わせ先に確認して下さい）

問合せ先：横浜市中区新港2-3-1 JICA 横浜3階 国際協力連絡室内

シニアボランティア経験を活かす会 神奈川分会

Fax:045-663-3263 担当：臼井道雄（045-891-5490）

URL [jicasvob.com](http://jicasvob.com) E-mail [info@jicasvob.com](mailto:info@jicasvob.com)



赴任国（講師名）	「タイトル」講演概要	
第127回 3月16日 (水) ドミニカ共和国 (橋本敬次)		<p>「環境保全型農業開発計画に携わった専門家・SV・JOCVの活動」</p> <p>小規模農家が家族労働や未利用資源を活用して付加価値の高い環境保全型の作物を生産・販売することにより収入の向上を図ることを目的に、地域の農業普及員や複数の農家を対象に講演会の開催や技術研修等を行った。本プロジェクトの実施に当たり、JICA 専門家（アドバイザー）、シニアボランティア（有機農業）及び青年海外協力隊員（村落開発、野菜栽培、病虫害）が相互に協力して成果をあげた。</p>
第128回 4月20日 (水) スリランカ (後藤俊吉)		<p>「仏教国「スリランカ」で活動して」</p> <p>赤道直下の国「スリランカ」、1951年サンフランシスコ講和会議の場でのスリランカ国代表の日本に対する賠償請求権を放棄する重要な発言が思い出されます。また、私の過去に経験した工業廃水処理技術に基づき、スリランカ工業団地で配属先の職員に工業廃水処理の改善方法について提案しました。この活動経過とスリランカの方々との交流を紹介します。</p>
第129回 5月18日 (水) カンボジア (斎尾恭子)		<p>「カンボジア王立農業大学などへの教育支援」</p> <p>2001年10月～2004年4月 JICA シニア海外ボランティアとして王立農業大学に派遣され、研究開発手法を大学教官に指導。2006、2008、2010、2012、2014年と2年おきに5～10日間カンボジア滞在し、同大学の農業産業部3、4年次学生へ集中講義。派遣中および帰国後、カンボジア人の日本での研修を支援し、現在、農業産業部とカンボジア米品質向上計画を進めている。</p>
第130回 6月15日 (水) ヨルダン (森岡 潔)		<p>「イスラムと砂漠の国ヨルダン」</p> <p>周辺国に紛争が絶えない中、唯一平和を保ち中東の緩衝地帯と呼ばれるヨルダン。国民の9割以上がムスリム（イスラム教徒）で国土の8割が砂漠という、日本とはあらゆる面で対局にある文化や自然環境を持った国である。ひたすら神の教えに従って生き、来世には天国での幸福を願うヨルダンの人々と触れ合いながら専門学校でマイコン技術の指導をおこなった2年間を報告する。</p>
第131回 7月20日 (水) マレーシア (斉藤祐子)		<p>「障がい児教育—始めの一步」</p> <p>アジアの中でも優等生と言われ、経済発展が目覚ましいマレーシアは、退職後住みたい国のNo. 1と報道されている。しかしようやく歩みだそうとしている分野もあり、障がい児教育はその一つである。現在注目されている自閉症児やADHD児をはじめ障がい児の自立に向けて、一步を踏み出した現地の人々と共に、活動した2年間をお伝えします。</p>